

特別座談会

「上原家、80年後の証言」

—登壇者—

上原 登志江氏（上原家次女）

横山 房子氏（元医学部教授青木貞章長女）

亀岡 敦子氏（上原良司研究家）

都倉 武之（慶應義塾史展示館副館長）

学徒兵の残した多くの遺稿中、最も有名なものともいわれる上原良司の「所感」。特攻死した良司は慶應の経済学部生でした。そして彼の2人の兄良春、龍男も慶應で学び、そして2人とも戦争で命を落としました。

3人の兄を失った妹である上原登志江さん。3兄弟が慶應に入学するきっかけを作った慶應医学部教授の娘で、上原家とは家族同然だった横山房子さん。このお2人に戦前の上原家や慶應義塾に関わるお話を伺い、戦後80年の節目に改めて戦争の時代について考えます。



軍医として中国に赴任中の父の激励で撮った5人きょうだいの写真。左から長男良春、次男龍男、三男良司、長女清子、次女登志江。良春・龍男・良司が戦没した。1937年春撮影。上原幸一氏提供

2025年7月12日（土）

14:00-16:00（開場：13:30）

慶應義塾大学三田キャンパス
南校舎5階（南校舎ホール）

※無料、申し込み不要、どなたでもご参加いただけます

